

1杯の飲酒でも数時間内の心房細動発症リスクが上昇

これまでの患者からの報告により、アルコール摂取が心房細動の誘因になる可能性があると考えられている。本研究では、アルコールの摂取により心房細動の発症率が高まるかについて前向きクロスオーバー解析を実施した。

発作性心房細動のある患者 100 例（平均年齢 64 歳、男性 75%、白人 85%）を対象とした。患者には心電図モニターと足首装着型経皮的アルコールセンサーを 4 週間装着させ、飲酒時にアルコールを 1 杯摂取するたびに心電図モニター記録ボタンを押して摂取量を記録させた。また、指先穿刺による血液検査でホスファチジルエタノールアミンの数値からアルコール摂取量を確認した。結果、56 例で心房細動を少なくとも 1 回発症していた。血液検査の結果は、患者のリアルタイム飲酒記録と経皮的アルコールセンサーの結果と一致していた。飲酒と心房細動発症リスクについて解析すると、アルコール 1 杯の摂取による 4 時間後の心房細動発症リスクは 2.02 倍、2 杯以上の摂取では 3.58 倍上昇した。心房細動発症前 12 時間の経皮的アルコールセンサーの結果より、最大血中アルコール濃度が 0.1% 上昇するごとに心房細動発症リスクは 1.38 倍上昇することが示された。

したがって、アルコール摂取はその後数時間以内の心房細動発症リスクを上昇させ、1 杯の飲酒でも心房細動のリスクが高まることが示唆された。また、心房細動発症には患者がコントロールできる修正可能な因子が影響する可能性も示唆された。

出典：Annals of Internal Medicine. Published online Aug 31,2021.

doi: 10.7326/M21-0228.